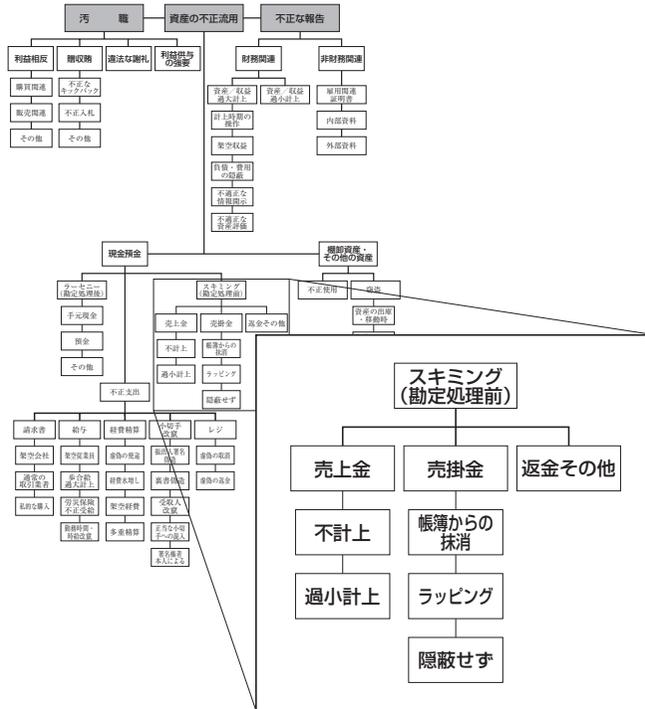


第3章

スキミング



ケース1 内気な医師の美顔術と不正蓄財

ブライアン・リーは一流の形成外科医だった。彼の患者は、自分が美しくなった理由を親友に打ち明けるとき、彼の技術と芸術性を褒めちぎった。真面目で穏やかな雰囲気を漂わせたこの42歳の独身医師は、自分の美容整形技術、特に隆鼻術、フェイスリフト、脂肪吸引、および豊胸術に関してひそかに自信を持っていた。

リー医師は、さまざまな専門医が勤務する大病院に勤めており、その病院はテキサス南西部郊外の新興住宅地に複数の系列診療所を展開していた。リー医師は中でも一番の人気医師として、年間100万ドル以上を売り上げ、30万ドルから80万ドルの年収を得ていた。しかしリー医師は、なんと4年間にもわたって、数十万ドルにも及ぶ診療報酬を隠していたのだった。

リー医師の不正行為が明るみに出ると、病院の理事会（医師仲間である株主により構成される）は正確な報告を求め、病院の顧問を務めるビッグ・シティ弁護士事務所はダグ・ルクレアに調査を依頼した。ルクレアはテキサス州、フラワー・マウンドを拠点とする CFE であり、これまでも別件で弁護士と協力し成果を挙げてきた。

「病院側は、どのくらいの金額が不明になっているかについて、独立した第三者による徹底的な調査・報告を求め、この不正行為がどの程度深刻なのかを知りたがっていました。私が判断する限りでは、本件にはリー医師以外に誰も関わっていないようでした」と、ルクレアは事件を振り返る。リー医師の秘書と看護師は、彼が手術を行っていることは知っていても、患者による支払を病院から隠していたことには気づいていなかった。ルクレアはこの不正行為の単純さに驚いたが、患者のプライバシーを重視するというリー医師の仕事の性質を考えると、彼が不正に利益を得るのは簡単だったのだろう。

ルクレアは、まず病院と診療室の規則を調べた（医師たちは独立した診療室を運営していた）。リー医師の診察システムでは、まず内密に無料相談を行って患者を診察し、さまざまな治療法とその期待される結果および費用総額について説明する。支払方法についてはリー医師か彼の秘書が、患者と相談の上で決めていた。

ルクレアは、「例えば、車の衝突事故でフロントガラスに顔を突っ込んで鼻を骨折した患者が、緊急を要さない再建外科手術など保険の範囲内の治療について保険金を申請しようとする場合でも、保険の免責金額については事前に自分で支払う必要があります」と述べている。

脂肪吸引などの保険が適用されない美容整形手術については、患者は現金または小切手で手術前に全額を支払わなければならない。多くの形成外科医と同様に、リー医師も患者が後悔して支払を拒否する事態を避けるため、クレジットカードによる支払を受け付けていなかった。支払は現金または小切手による一括前払いのみで、それには手術後の診察費もすべて含まれていた。

患者がいったん手術を受けることを決めると、リー医師または秘書は、手術予定表をもとに患者と相談して手術予定日時を決定する。リー医師は、勤務する病院や提携病院で手術を行っていた。手術日当日、患者は受付後に秘書に手術費用を支払う。秘書は受け取った現金・小切手を領収書とともに即座に処理伝票に添付し、日報に記録した上で、一時的に小さな金庫に保管した。

「1日が終わると、医師、看護師または受付係のいずれかが、すべての事務書類と現金・小切手（数万ドル以上にもなることも多い）を病院の会計課に持っていくが、会計課の業務が終了している場合、医師は次の日まで自分の机の引出しに金庫を入れて鍵をかけておくのが常でした」

と、ルクレアは説明する。手術が提携病院で行われる場合、患者は費用を前払いし、執

刀医の診療室スタッフがすべての書類を会計課に提出した後に、病院と医師の間の収益配分が決められる。

しかし、巧妙に練られた計画でも実行時にほろが出ることが多いとルクレアは指摘する。リー医師の不正発覚につながったのは、リタ・メイ・ギブンスという患者が希望した鼻の形成手術であった。病院は、患者がエレベーターから降りて右手側に進むと総合受付、左手側に進むとリー医師の診療室の受付がある構造になっていた。5階でエレベーターを降りたギブンスは、リー医師が事前に指示したとおり左手側に進み、病院の事務員にも受付係にも会うことなく、リー医師の専用オフィスのドアから診療室に入った。病院のスタッフは、リー医師がギブンスの鼻の形成手術の予約を入れ、手術を行ったことを全く知らなかった。ギブンスはリー医師に小切手で支払をした。

手術後、ギブンスは保険証書を確認し、鼻の形成手術は保険の対象となる場合があること、また、少なくとも医療控除の対象になることを知った。彼女は保険金申請を行うことにしたが、保険会社から要求されている申請書類に添付すべき請求明細書を受け取っていないことに気づいた。そこで彼女は請求書のコピーをもらうために、病院の事務所に（リー医師が予期しなかった）電話をかけた。連絡を受けた病院の出納係は彼女のファイルは見つけたものの、行われた手術に対する請求が記載されていなかったので疑問に思った。ギブンスは出納係に、手術は確かに行われたこと、費用は小切手で支払ったことを説明した。

出納係は診療室長に、ギブンスの支払記録があるかどうか尋ねた。記録はもちろん見つからず、この件は病院の事務長に報告された。ほかの施設で手術した場合、医師が会計手続を忘れることがあるため、事務長は医師の手術記録を確認するよう指示した。一方で診療室長はギブンスに支払済小切手のコピーを提出するよう依頼した。そして、その小切手は既に換金手続がなされ、リー医師個人の銀行口座に入金されていたことが判明したのである。

事務長は、リー医師が手術をしたにもかかわらず会計課に患者から受け取った小切手を提出しなかったことを確認した。問い詰められたリー医師は、自らの不正を認めた。事務長はこの事実を理事会に報告し、調査のためにCFEのルクレアが雇われたのである。

調査中、ルクレアはリー医師に何度か事情聴取をしたが、リー医師は深く反省しており、調査に協力的だった。彼は、保険会社が病院から追加書類の取得を求めることを警戒して、特定の手術を受ける患者からの支払のみを着服したと説明した。また、秘書が出納に領収金を提出する前に金庫から金を抜き取ることもあったという。患者との予約を内密にして、患者から支払われた現金などを直接自分の懐に入れる場合もあった。彼は専ら現金を着服したが、小切手も着服した。着服した小切手は自分の机の引出しに入れておき、数週間が経過してから現金化するか、自分の銀行口座に預金した。リー医師は領収書は廃棄したが、医師としての責任感から、すべての患者のカルテは几帳面に保存していた、とルクレアに

話している。

不正を働いた当人が非常に協力的であったため、ルクレアはこの事件を「楽で簡単」な事件と位置づけた。リー医師は、合法か違法かにかかわらず、すべての行為を綿密に記録していた。リー医師の協力の下、ルクレアは彼個人のスケジュール帳と病院の記録を比較し、不明な支払金額を即座に洗い出した。リー医師は銀行勘定照合表までルクレアに提出したため、彼の預金と着服金額を一致させることもできた。また彼は、さらなる不正収入への疑いを晴らすため、自分の投資残高の内容まで開示した。

「リー医師は何ひとつ隠そうとはしませんでした」

と、犯罪調査に20年のキャリアを持つルクレアは言った。

「私は事件のすべてを書面で確認することができました。事情聴取の中でリー医師が話したことは、ほとんどすべて信頼できるものでした」

長時間に及ぶ聞き取り調査の後、ルクレアは誰もが不思議に思っていた質問を投げかけた。

「なぜこんなことをしたのかですって。欲ですよ」

と、リー医師は答えた。どんなに金を稼いでも、彼はさらに多くの金を欲したのである。成功して裕福な父や兄弟と同様、リー医師はスポーツや余暇にあまり時間を費やさなかった。富への執着はリー家の血筋とも言えるものであり、ほかの家族に一步先んじることを競うゲームだったのだ。

「一番多く蓄財できるのは誰か。一番いい車を持っているのは誰かというように、競争がエスカレートしていったそうだ」

と、ルクレアは語った。

ゲームに勝つため、リー医師は発覚すれば刑罰に処せられる多大なリスクが伴う重窃盗罪に手を染めたのである。ルクレアは語った。

「私はリー医師を気の毒に思いました。あのような地位にある人がすべてを失うなんて」

数週間に及ぶ調査の後、弁護士事務所とルクレアは病院の理事会に報告書を提出し、求めに応じて提言を行った。ルクレアは報告書の前書きに今回の教訓を記した。

「脆弱な内部統制は、10万ドル以上稼ぐ医師の不正をも誘発してしまう。もし機会と手段が与えられ、発覚する可能性が非常に低ければ、心の中で自分の不正を正当化してしまう者もいるだろう」

ルクレアは、病院の中央に支払エリアを設け、患者にわかりやすいように表示し、支払処理の各業務を数名の事務員で分担して行うよう、支払システム全体の刷新を提案した。監視システムを全く有していない病院側に対し、あらゆる段階において勘定を照合するようにし、定期的に内部監査を行う必要があると勧告した。

この不正行為は、4年もの間発覚を逃れていた、とルクレアは聞き入る理事会メンバー

に向かって言った。彼の調査の結果、リー医師の着服金額が20万ドルにも上ったことが判明した。

その後、多くの議論と質疑応答が重ねられ、理事会メンバーのうちの数名はリー医師を即座に解雇することを主張した。だが、「同胞に対して心から同情しているメンバーもいました」とルクレアは述べている。

「病院側にとっての最大の懸案事項は、所得税の負担でした」

国税庁 (IRS) の犯罪捜査部門で特別捜査官として9年間勤務していた経験から、ルクレアは未回収の収入に対して所得税が課せられることはないとは病院側に説明した。会計管理の甘さや、ほかの医師も全く潔白だと確信できないことを考え、病院は国税局の税務調査を望まなかった、とルクレアは言った。連邦政府の調査官が周辺をかぎまわり、発覚した不正以外の不正な収入や違法行為を発見することを恐れた。ルクレアは、被害金額が回収された場合は当然それに対する課税があると警告した。

医師たちは合意事項として、リー医師を告訴したり解雇したりしないことを決定した。もちろん、リー医師には20万ドル全額を利子つきで直ちに賠償すること(初回の支払として、リー医師は自宅に保管していた現金1万5,000ドルを返済した)、不測の事態に備えてさらに20万ドルを第三者に預託することを求めた。そして当然のことながら、この事件に関する弁護士および調査費用もリー医師が負担することとなった。

リー医師の同僚たちは、病院で最も腕のいい医師を解雇せずに、更生のための心理カウンセリングを受けることを条件として、彼に診療を続けさせることに合意した。自分たちにできることは何でもしてやろうと思った、と同僚たちは語っている。仕事以外の世界に触れさせるため、彼らはリー医師を釣りや狩猟に誘った。カウンセラーからの勧めもあり、リー医師はこうした誘いを受け入れた。孤独だった彼は、今は生活を楽しんでいるようだ。

従業員の不正への誘惑を断ち切るため、病院は直ちに支払処理に関する新しい方針を策定した。「それはいいことです」と、ルクレアは言った。改心したリー医師は、後にルクレアにこう語った。チャンスがあれば「またやってしまうだろう」と。

*匿名性を守るため、一部の名前は変更してある。

1 要旨

スキミングとは、ケース1に示したように、現金の着服のうち、勤務先の会計システムに記録される以前に抜き取る不正行為を指す¹⁾。勤務先から現金をスキミングする従業員は、売上金あるいは売掛金が会社の帳簿に記入される前にそれらを盗む。このような性格から、スキミングは簿外不正とも呼ばれる。つまりスキミングは、直接の監査証跡を残さない手口だといえる。着服された資金が記帳されていないということは、そもそも会社はその現金を受領したと認識

していないかもしれない。この場合、着服を見破るのは極めて困難となろう。そして、不正実行者にとっては、この点こそがスキミングの最大の利点なのである。

スキミングは、現金の受取りが発生するあらゆる業務で起こり得るので、現金受領の手續に関わるほとんどすべての者（販売員・出納係・給仕係など、顧客から直接現金を受け取る者）が、スキミングを行える立場にあることになる。また、顧客からの郵便による支払金の受領、記録を担当する従業員がスキミングを働くことも多い。こうした不正実行者は、郵便物から小切手をこっそり抜き取って懐に入れ、しかるべき収益勘定や売掛金勘定への記入を行わないのである。顧客と直接取引をする者や、顧客からの支払金を扱う者が、資金のスキミングを行う可能性が最も高いことは明らかである。一般的に、スキミングは以下の4つの手口に分類できる。

1. 売上の不計上
2. 売上および売掛金の過小計上
3. 郵送された支払小切手の窃取
4. 短期スキミング

2 2006年 ACFE 全米不正動向調査結果

—スキミングに関するデータ—

(1) 発生頻度と損失額

第1章で職業上の不正には、資産の不正流用、汚職、不正な報告の3つの主要な分類があることがわかった。さらに、それらの中では資産の不正流用が最も頻発しており、本調査における1,134件の事例のうち1,038件、90%以上が資産の不正流用に関連した事例であったことも判明した。

不正の体系図が示すとおり、資産の不正流用はさらに現金資産と非現金資産の不正流用に分けることができる。資産の不正流用事例全体に占める現金／非現金の割合と損失額は**図表 3.1**のとおりである。同表より、2006年の調査では現金資産の不正流用の方が頻度は高いが、損失額は低い傾向にあることがわかる。

図表 3.1 2006年全米不正動向調査：不正流用の対象（現金／非現金）

種類	全件数に占める割合	損失額（中央値）
不正流用の対象		
現金（910件）	87.7%	\$ 150,000
非現金（243件）	23.4%	\$ 200,000

注：第1章で述べたとおり、事例の中には複数の不正の種類を含むものがあるため、本表における割合の合計は100%を超えている。